

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：民生費 項：社会福祉費 目：障害者福祉費

事業名 障害者就業・生活支援センター事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 障害福祉課 社会参加推進係 電話番号：058-272-1111(内3484)

E-mail：c11226@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 56,544 千円 (前年度予算額： 56,544 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	56,544	28,272	0	0	0	0	0	0	28,272
要求額	56,544	28,272	0	0	0	0	0	0	28,272
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

障がい者の雇用を進める上では、就職や職場適応などの就業面の支援ばかりでなく、生活習慣の形成や日常生活の自己管理など生活支援も重要であり、身近な地域で、就業面及び生活面で一体的かつ総合的な支援を提供することが必要

(2) 事業内容

職場不適応により離職した者や離職のおそれがある在職者など、就職や職場への定着が困難な障がい者及び就業経験のない障がい者に対し、障害者就業・生活支援センターにおいて、就業及びこれに伴う日常生活、社会生活上の支援を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

国1/2 県1/2 [必置分：地域生活支援促進事業、加配分：地域生活支援事業]

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	56,544	障害者就業・生活支援センター事業の実施に必要な委託料
合計	56,544	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県障がい者総合支援プラン

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

同センターの5圏域体制（岐阜は2か所）を維持し、新規の障害福祉サービスである就労定着支援事業についての支援を行いながら、地域の就労・生活支援を継続して実施する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H15)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①センター設置箇所数	-	6	6	6	6	100%
障がい者実雇用率	-	2.35%	2.50%	2.50%	2.50%	-

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者数：延べ1,982人（5圏域合計） ・相談に対する支援：延べ9,566件（5圏域合計） ・障がい者本人に対する相談支援による職場定着や関係機関等との連携が促進された。
	指標① 目標：6箇所 実績：6箇所 達成率：100%
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者数：延べ1,951人（5圏域合計） ・相談に対する支援：延べ9,463件（5圏域合計） ・障がい者本人に対する相談支援による職場定着や関係機関等との連携が促進された。
	指標① 目標：6箇所 実績：6箇所 達成率：100%
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者数：延べ1,925人（5圏域合計） ・相談に対する支援：延べ8,245件（5圏域合計） ・障がい者本人に対する相談支援による職場定着や関係機関等との連携が促進された。
	指標① 目標：6箇所 実績：6箇所 達成率：100%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 2	<p>就職を希望する障がい者や在職中の障がい者が抱える課題に応じて、雇用及び福祉の関係機関との連携のもと、就業支援と生活支援の担当者双方が協力して、就業面・生活面の一体的な支援は必要である。</p>
<p>・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>平成21年度に県内5圏域に1センター体制が確立し、平成28年度には岐阜県域に1か所追加して合計6センターで、障がい者の雇用・保健・福祉・教育等の地域の関係機関の拠点となり、障がい者の身近な地域において就業面及び生活面における一体的な支援を行って着実な実績をあげている。</p>
<p>・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>関係機関と連携し、利用者の支援を実施している。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 今後さらなる相談件数の増加、内容の多様化が見込まれ、現在の人員体制では適切な支援を行うのが難しい。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 障がい者の就労・生活支援を地域レベルで継続し、事業主、支援者、地域の連携をさらに強化することで、就業及びこれに伴う日常生活、社会生活上の支援を行っていく。 また、障がい者のライフステージを通じた効果的な就労・生活支援のため、各圏域の就労支援ネットワークにより共有した情報やノウハウを活用して、個々の相談に対して適切に支援する。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	